

③ 2011年7月17日[日]

Die Alphabeten (Matthias Zschokke)

『文学盲者たち』

作:マティアス・チョッケ
翻訳:高橋 文子
演出:松井 周(サンプル)

④ 2011年7月19日[火] 20日[水]

Ich schau dir in die Augen,
gesellschaftlicher Verblendungs Zusammenhang!
(René Pollesch)

『あなたの瞳の奥を見抜きたい
—人間社会にありがちな目くらましの関係』

作:ルネ・ポレシュ
翻訳・出演:原 サチコ(ハノーファー州立劇場)

○ 2011年7月10日[日] 14:00-16:00

関連レクチャー

「原サチコ ドイツで生きる 役者を生きる」

講師:原 サチコ(ハノーファー州立劇場専属女優)
聞き手:伊達 なつめ(演劇ジャーナリスト)

ルネ・ポレシュをはじめ、クリストフ・シュリンゲンジーフ、ニコラス・シュテーマンらドイツ演劇界の名だたる演出家の下で活躍し、特異な存在感を放つ日本人俳優の原サチコ。日本を飛び出してから、さまざまな出会いを通じて現在、ドイツで女優として活躍中。ここに至るまでの軌跡やドイツで生きる俳優としての日常など、原サチコでなくては語れない貴重なエピソードの数々が満載のトーク。終了後、質疑応答の機会あり。

Neue Deutsche Dramatik VISIONEN



ドイツ同時代演劇リーディング・シリーズ

ドイツ文化センターでは、2010年より新しい演劇プロジェクト「VISIONEN」を始動しました。日本の若手演出家や劇団の参加を得て、同時代を生きるドイツ語圏の劇作家たちの戯曲をリアルタイムで発信し、日独文化交流の新たな共同作業の展開を目指して定期的なリーディング公演を行っていきます。



『文学盲者たち』 Die Alphabeten

作: マティアス・チョック Matthias Zschokke
 翻訳: 高橋 文子 (『ドイツ現代戯曲選30』論創社より刊行中)

古舘 寛治 (サンプル・青年団)
 古屋 隆太 (サンプル・青年団)
 奥田 洋平 (サンプル・青年団)
 野津 あおい (サンプル)
 島田 桃依 (青年団)
 伊東 沙保

2011年 7月17日 (日)
 14:30 / 19:00 (全2ステージ)

演出・松井 周 (サンプル)



(c) 青木司

※14時30分開演の回終了後には、演出家と翻訳家によるアフタートーク、および語学コース受講生によるドイツ語リーディング発表があります。
 ※開場は開演の20分前、受付開始は40分前となります。

ドラマトウルク ● 野村政之、横堀応彦
 制作 ● 三好佐智子
 制作協力 ● サンプル、有限会社quinada
 助成 ● 公益財団法人セゾン文化財団

【テスト・サンプル:01】

今回から【テスト・サンプル】と銘打って思いついたことをなるべくラフなまま、公演形態にこだわらず、お見せしようとする試みを始めようと思います。様々なやり方で演劇の面白さを探っていくつもりです。ご期待下さい。(松井周)

物語

才能ある新人作家スザンナは、将来に迷いと不安を感じている。彼女を導こうとする学者肌のゼート博士、外の世界に誘い出そうとする「若い男」、「平凡すぎる」女刑事などが絡み合うなか、スザンナはふらふらと歩み始める。文学とは一本道か、それとも回り道、曲がり道なのか。コメディの要素を散りばめながら、文学をめぐる人びとの期待と失望、現実と空想を描く。

マティアス・チョック

1954年スイスの首都ベルリンに生まれる。チューリヒで演劇を学んだあと、ポッフム劇場の俳優を経て1981年に『マックス』で作家デビュー。以来ベルリンに住み、映画監督としても活動する。メランコリーとユーモアの間を行き感うような筆致で高い評価を受け、ソルトゥルン文学賞、フランスのフェミナ賞外国小説賞などを受賞。作品に小説『モーリッツと雌鶏』(2006)、エッセー集『旅路にて』(2008)など。



会場

ドイツ文化会館ホール
 〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56
 TEL: 03-3584-3201

地下鉄青山一丁目駅から徒歩5分
 A4出口を出て青山通りを赤坂郵便局方面へ。
 高橋是清翁記念公園と草月会館のあいだの道を
 右折、150mほど進みます。



『あなたの瞳の奥を見抜きたい — 人間社会にありがちな目くらしの関係』 Ich schau dir in die Augen, gesellschaftlicher Verblendungszusammenhang!

2011年 7月19日 (火) 19:00
 (全2ステージ) 20日 (水) 19:00



foto/Christian Wyrwa

原サチコ

1964年神奈川県生まれ。上智大学外国語学部ドイツ語学科卒。1984年から劇団演劇舎蟻、劇団ロマンチカを経て、2001年にベルリンへ移住。クリストフ・シュリンゲンジーフやニコラス・シュテマン、ルネ・ボレシュなど多くの演出家の作品に出演。2004年、東洋人として初のウィーン・ブルク劇場の専属女優となる。2009年からはハノーファー州立劇場の専属女優として活躍中。

ルネ・ボレシュ

1962年生まれ。ドイツのギーゼン大学応用演劇学科で学ぶ。1992年フランクフルトのTAT劇場で活動を開始。以来、ドイツ語圏各地の劇場で劇作家として演出家として精力的に活躍している。2001年ミュールハイム劇作家賞受賞。2001～2007年はベルリン・フォルクスビューネ劇場に付属する小スペース、ブラーターの芸術監督を務める。2002年『テアター・ホイテ』誌の最優秀劇作家に選ばれる。日本では2006年にtpoのプロデュース公演『皆に伝えよ! ソイレント・グリーンは人肉だ』を演出し、鮮烈な印象を残した。

※開場は開演の30分前、受付開始は1時間前となります。
 ※各回終了後には、原サチコとゲストによるアフタートークを予定しています。

作: ルネ・ボレシュ René Pollesch

翻訳・出演: 原 サチコ (ハノーファー州立劇場)

制作協力 ● 有限会社マッシュ M★A★S★H

ルネ・ボレシュの作品は哲学や社会学の難解なテキストを引用しながらも、その舞台は堅苦しさとは無縁、ヒップでユーモアと笑いに満ちている。本作品でも、目くらし“Verblendung”によってすっかり固定してしまったモノの見方に風穴が開き、目の覚めるような新しい風景が展開するはず。現在ベルリン・フォルクスビューネ劇場で絶賛上演中。

作品について(原サチコ)

「ハムレットの苦悩はあなたの苦悩にはならない。劇場で、社会で、いろいろな『目くらし』が氾濫している。あなたは王子でもなければ、あなたの父親が殺されたわけでもない。ハムレットの問題じゃなく、今現在、肉体を持って生きるあなたの問題は何かの。

アドルフ! フーコー! ナンシー! ジジェク! それらの理論を借りて、現代社会を生きる私の、私たちの問題を舞台上に果敢に展開させるのがルネ・ボレシュだ。」

(初演:2010年、ベルリン・フォルクスビューネ劇場、出演:ファビアン・ヒンリヒス)

全席自由 / 一般=1,500円 / 学生、ドイツ語講座受講生=1,000円 (7月10日の関連レクチャーは入場無料)

チケット発売日 | 2011年6月4日 (土) 午前10時

チケット予約 | 文学盲者たち サンプルホームページ <http://www.samplenet.org/>
 関連レクチャー、あなたの瞳の奥を見抜きたい veranstaltung@tokyo.goethe.org

お問い合わせ | TEL: 03-3584-3201 / E-mail: info@tokyo.goethe.org (東京ドイツ文化センター)

主催: GOETHE-INSTITUT TOKYO 東京ドイツ文化センター

最新情報はツイッターでも

「VISIONEN」公式アカウント http://www.twitter.com/visionen_goethe



This translation was supported by Goethe-Institut.